

■ VR 技術者認定試験・講習会報告

第 6 回バーチャルリアリティ技術者認定試験・講習会 (セオリーコース※)

※ベーシックコースより名称を変更しました (内容は以前同様です)

■ 企画担当理事より

清川 清 (大阪大学), 神部勝之 (ソリッドレイ研究所)

本学会では教科書「バーチャルリアリティ学」に基づき、2010 年 4 月よりバーチャル技術者認定試験講習会および試験を実施している。4 章までを対象とする「セオリーコース」と、5 章以降を対象とする「アプリケーションコース」がある。いずれかの試験合格者には「VR 技術者」の資格を認定し、順序を問わず両方に合格すれば「上級 VR 技術者」の資格を認定している。今回、第 6 回バーチャルリアリティ技術者認定講習会 (セオリーコース) を東京で 2013 年 5 月 11 日 (土) に実施した。また、同認定試験を東京、大阪、名古屋の 3 地区で 2013 年 6 月 1 日 (土) に実施した。

安定的に大勢の方々に参加いただけるよう様々な工夫を行った。まず実施時期について、研究室の新入生や企業の新卒者などが VR 技術を初めて学ぶ際に都合がよいと考え、4 月以降早期の開催とした。また、IVRC と連動させていただき、その事前説明会で認定制度について紹介いただいた。また、講習会受講料を見直し、正会員は 17,000 円から 10,000 円に、学生会員は 7,000 円から 2,000 円に値下げした。結果として、講習会受講者 31 名、認定試験受験者 33 名を集め、第 1 回を除いては過去最多の方々に参加いただいた。

今回の講師は教科書の執筆者またはその推薦者をお願いした。試験問題は、これまで通り全問記号選択式として、問題作成編集小委員会が作成した。試験結果は、100 点満点換算で最高 96 点、最低 57 点、平均 80.1 点で、60 点以上の 32 名を合格とした。

アンケートでは、講習会・試験ともに内容、レベル、ボリュームともに満足、あるいはちょうど良いという回答が多かった。今秋には教科書後半のアプリケーションコースを対象とした第 7 回認定講習会・試験を予定している。また、体験談などを盛り込んだ認定制度の紹介ホームページを立ち上げる予定である。今後の活動に引き続きご支援をいただきたい。



講習会の様子

■ 実施記録

●講習会 (セオリーコース※) ※ベーシックコースより名称を変更しました (内容は以前同様です)

日 時: 2013 年 5 月 11 日 (土)

会 場: 東京大学 (本郷キャンパス工学部 2 号館 221 号講義室)

申込者: 33 名 (正会員 4 名, 非会員 1 名, 学生会員 9 名, 学生非会員 19 名)

参加者: 31 名

<プログラム>

*「バーチャルリアリティ学」をテキストに使用

○第 1 章: バーチャルリアリティとは (10:00 ~ 11:00)

講師: 小木哲朗 (慶應義塾大学 教授)

○第 2 章: ヒトと感覚 (前半) (11:10 ~ 12:10)

講師: 日高聡太 (立教大学 准教授)

○第 2 章: ヒトと感覚 (後半) (13:00 ~ 14:00)

講師: 茅原拓朗 (宮城大学 教授)

○第 3 章: バーチャルリアリティ・インタフェース (14:10 ~ 15:40)

講師: 橋本直己 (電気通信大学 准教授)

矢野博明 (筑波大学 准教授)

○第 4 章: バーチャル世界の構成手法 (15:50 ~ 17:40)

講師: 長谷川晶一 (東京工業大学 准教授)

谷川智洋 (東京大学 講師)

●認定試験 (セオリーコース※) ※ベーシックコースより名称を変更しました (内容は以前同様です)

日 時: 2013 年 6 月 1 日 (土) 10:30 ~ 12:00

会 場: 東京大学 (本郷キャンパス工学部 11 号館講堂)

名城大学 (天白キャンパス共通講義棟 S-501 講義室)

大阪大学 (サイバーメディアセンター情報教育第 3 教室)

参加者: 33 名 (東京 16 名, 名古屋 10 名, 大阪 7 名)

合格者: 32 名 (正解率 60%以上合格)

■ アンケート結果

講習会 * 回答 29 名のうち 9 名は講習会不参加

講習会の内容について

満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満
5	8	4	2	1

講習会のレベルについて

高すぎる	やや高い	ちょうど良い	やや低い	低すぎる
0	1	17	2	0

講習会のボリュームについて

多い	やや多い	普通	やや少ない	少なすぎる
1	9	8	1	1

<講習会について参考になった点>

- それぞれの専門の先生に講義をしていただき、対面で質問できるという点は何より良い。
- 言葉としては最近だが、古くから研究されており、それでいて基本3要素が確定していなかったり、まだ解明できていない事がある奥の深い領域だと感じた。
- 普段、系統立って聴く機会が少ない認知科学や神経学の分野と理工学的アプローチの接点について学べたこと。4章のレンダリングの話などは教科書だけではイメージしにくいものがあったが、講習会で実際に使われているバーチャル技術の動画などを見ることができたので、イメージがしやすかった。
- VRに関する基本的な概念のおさらいと自分の取り組んでいなかった分野の学習に非常に役に立った。
- 本の内容の密度が高いため、講習会にて簡潔にまとめたただけなのは助かった。
- 実際に、体験できたことがよかった。
- 重要な点について繰り返しご説明をいただくことができたため、本質がどこにあるのかということを明確に理解できた。

<講習会に対する意見、感想>

- 漠然とわかっていると思っていた内容だったが、掘り下げていくとわかっていない部分が多く、勉強になった。
- 内容が薄すぎる。2日間に分けて行ったらどうか？
- どの先生も時間がないと駆け足でやられたのが残念。
- 教科書を読めば分かる部分はもう少し省略して、ポイントに絞った方が良かったと思う。
- 視覚の話をしていただいた先生以外の講習がスライドを見たり、教科書を見ればすべて載っているため意味がなかった。
- VRの専門の講習会というのは、特に国内では貴重な機会です。VR分野を独学で進むのはなかなか難しいので、こうした講習会があれば、新たなコンテンツ作りのきっかけにもなると思う。
- 2章の容量をもう少し減らせたらいいのではと思った。
- とても楽しく参加できたが、1~4章を1日でカバーするのは大変なため、講習会の最後は眠かった。
- DVDを通常のプレーヤーで視聴することができなかった。その点改善をいただければと思います。

認定試験*回答 29名のうち2名は試験不参加

試験の内容について

満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満
11	10	6	0	0

試験のレベルについて

難しい	普通	簡単
3	16	8

試験のボリュームについて

多い	やや多い	普通	やや少ない	少なすぎる
0	2	20	5	0

<試験に関する意見、感想>

- 過去問が掲載されていたのは非常に良かった。過去問を解

いた結果80点程度でしたが、勉強し直して本番では90点以上を取る事ができた。合格率はだいぶ高いようだが、選択式とは言え試験の内容は専門的にある程度の期間勉強してないと合格できないものであると思う。

- 留学生です。教材で自習するのが少し大変かもしれませんが、DVDの講習会材料のPDFには試験の重点が収録されているのが助かりました。
- 合格ライン6割は甘すぎでは？
- VRそのものではありませんが、業務で関連の専門知識が必要で、そのスキルは分かる人には分かっていたのですが、なかなか他の人に分かってもらえる手段がなかったので、今回のような認定試験は非常にありがたい。
- 試験を受けるにあたり、勉強させていただいた中で、分かっていたと思っていた事が、まだまだ知らない事が多い事があり、これからの励みになった。
- 自分が想定していたものよりは解きやすい内容だった。問題の内容もそれほど難易度は高くなく、問題数もちょうど良かった。VR装置を誰が作ったか、という問題は不要だったのではないかと。重要なことは、その装置が生まれた理由、可能にした技術、VR特有の着眼点などだと思う。
- 会場に案内が少ないように感じた。門のところにも張り紙や立札などがあればよいと思う。
- エアコンが寒かった。

その他

認定講習会の内容を収録したDVDについて

利用した	利用しなかった
19	8

認定講習会のDVDの効果について

大変役に立った	少し役に立った	どちらとも言えない	あまり役に立たなかった	むしろ逆効果だった
9	8	8	1	0

講習会 / 試験の実施日について

平日がよい	土日祝日等休日がよい	どちらでもよい
1	25	3

大会との併催について

参加しやすい	どちらでもよい	大会とは別日程がよい
3	20	6

本講習会、試験をお知りになったきっかけについて

ご紹介	学会HP	学会ML	ブログ	知っていた	その他
23	5	2	0	0	0

ご自身についてお伺いいたします

学生	修士・博士	研究員	教職	会社員	その他
17	9	1	1	1	0

<大会との併催についての意見、感想>

- 大会直前や大会前は非常に多忙となるため、後日開催などにしてもらえた方が助かる。
- 試験は休日だったので、出張申請もなく受けられたが、大会と併催であれば、申請も出しやすいと思う。
- 大会に応募して、通過すれば発表もするかもしれないので、併催はちょっと辛いです。